

## 第2回米軍基地問題に関する万国津梁会議 議事概要

日 時：令和2年8月26日（水）9:00～11:30

場 所：県庁6階第2特別会議室

出席者：柳澤 協二 委員長、野添 文彬 委員、山本 章子 委員

(webでの参加)添谷 芳秀 委員、マイク 望月 委員、宮城 大蔵 委員

---

議事 9:00 ～ 11:30

議事・意見交換

令和2年度の提言に向けて、構成案を野添副委員長より説明の上、担当部分について各委員に確認。その後、具体的な内容等の議論となった。

### 【日米同盟及び近年の国際情勢、日本の安全保障政策について】

(委員)

米大統領選の結果にかかわらず、アメリカの対中強硬姿勢と日米同盟の強化の方向性は強くなってくると思う。その中で、どのような提言を行うかが課題である。

(委員)

対中脅威論を強調すればアメリカ依存にならざるを得ない現状にどのように対応していくかが中長期的な課題になると思う。

重要なのは、沖縄から見た場合の日米安保、日本外交、日本の安全保障政策というものがどう見えるのか。沖縄問題というものは日本問題であると捉えるという発想の重要性が指摘できる。さらに言えば、日本を超えてより広いアジア太平洋地域で考える視点が必要だと思う。

また、日本は日米同盟を基軸としていることを基本的な前提とした上で、日本側、沖縄側が考える望ましい方向性等を発信する必要がある。

(委員)

地域協力のことについて、現在開かれたインド太平洋構想が推進されているが、この中に入っていない韓国が日本と安全保障について協力をしていけばアメリカに対する発言力がもっと出てくるのではないかと考える。

また、台湾についても、非常に難しいが今後考えていく必要がある。

台湾問題において沖縄の役割は非常に重要で、経済交流や人的交流等で緊張緩和の役割を果たせるのではないかと考える。

(委員)

日本の安全保障政策の分析の際は、米軍の軍事戦略についても意識をする必要がある。また、日本の安全保障政策で南西防衛が重要となってくると思われるが、このことは沖縄の米軍基地の問題にも非常に関わってくる。

【辺野古新基地計画、普天間基地の運用停止及び基地の整理縮小について】

(委員)

辺野古新基地建設計画の断念について議論すると、普天間基地の早期の運用停止についての課題が出てくるが、今後の状況の変化等を見ながら議論をしていきたい。

また、辺野古については沖縄県でも防衛省からの設計変更申請を精査していると思うので、県からの技術的な問題点の指摘も踏まえて今年度の提言をまとめていきたい。

(委員)

辺野古については、軟弱地盤の問題やイージスアショアが中止になったことに関連して辺野古見直しの議論もされているので、そういう機会を使って具体的な方向性を検討することは非常に意味があると思う。

ただ、軟弱地盤の問題等はまだアメリカでもそれほど認識をされていない。

(委員)

普天間飛行場の返還問題については、沖縄の米軍基地全体の返還問題と関わってくるところがある。これらをどこかで連結させる必要があると考えている。

(委員)

海兵隊の削減の議論は中国へ誤ったメッセージを与えるという主張については、アメリカ

力の対中戦略が今後厳しくなっていく中でも、海兵隊の事実上の削減は可能という考え方を立論できるようにするべき。

(委員)

米軍全体がどのように軍事力を第一列島線中心において展開していくかということになると、抑止力の観点からは海兵隊がどこにしよう問題ではなくなってきている側面もある。

米中関係に何ら問題のない平穏な中で、急に海兵隊がいなくなった場合は、中国に誤ったメッセージを与えるということになるかもしれないが、アメリカが対中戦略を強化する方向性が明らかとなっている中では、海兵隊の配置等を含めて、持続可能な戦略転換を行う上での在沖海兵隊の整理・縮小の必要性を提示することはできると思う。

(委員)

誤ったシグナルを与えるという指摘について反論すべきということに同意する。

両政府がしっかり協議して、沖縄の負担を軽減することによって、逆にもっと強力な日米同盟が成立するということになる、ということを引きちんと反論すべき。

## 【トラック2について】

(委員)

トラック2に入っていただく人の考え方については、沖縄県が関与する形としつつ、他の主体によって行うと仮定した場合、イメージとしてはかつて実務に携わった人、実務者のOBのような人を中心に考えていく方がよいと思う。

(委員)

トラック2の成果がアメリカの政策に影響を与えるようにするには、アメリカの主流の人や、アメリカで影響力のある人がある程度入る必要がある。最終的には、アメリカの戦略がどのように動くかによって沖縄の状況が左右されると思う。

(委員)

米中の狭間にあるアジア諸国による2国間の安全保障協力をできるだけ多角化させていくという問題意識からみると、トラック2にアジア諸国の戦略家を呼ぶことも重要なのではないか。

(委員)

トラック2については、議論の方向性がどこに向かうか読めないことがある点が気になっている。

また、県が主催するとなると財源やマンパワー等で制約があるので、沖縄に関心を持つシンクタンク等の力を借りながら行うことも大事ではないかと思う。

(委員)

いろいろな議題があってよいと思う。今後県と認識をそろえながら、トラック2に関するアイデアやパートナー等について、様々なつながりの中で掘り起こして行くとよい。

#### 【アジア太平洋の結節点に向けた国際交流の取り組みについて】

(委員)

アジア太平洋の結節点としての沖縄について、すでに沖縄県で取り組んでいる事業が様々ある。それらの現状分析を踏まえた上で、アジア太平洋における緊張緩和に向けた沖縄の役割をうまく組み入れていくような方向性を検討する。

人員や予算は少なくてよいので、沖縄に心を寄せる研究者を客員の形で招くなど、研究者同士のつながりを作る場があった方がいい。そのため、緊張緩和や安全保障等に踏み込むような研究所等の創設を検討してもいいのではないかと思う。

#### 【日米地位協定について】

(委員)

米軍の訓練移転を受け入れている自治体の協定書を確認すると、最低限の訓練の内容しか記載されていないものがある。詳細な内容については口頭要請となるが、これが守られない。また、自治体と国の機関(防衛省)との協定となっているため、米軍側への直接の抗議等ができず、地方の防衛局に要請等を行うこととなるが、この内容が米軍や国(防衛省本省等)に伝わっているか定かではない等の問題があることが分かった。

沖縄の負担軽減として本土の自治体に訓練移転を受け入れてもらうことを考慮すると、自治体が国と結ぶ協定書のあり方を提示するに当たっては、国に対して訓練の内容を限定させるという点が鍵になってくると考えている。

(委員)

今回の提言のテーマは自治体と国との協定の内容に絞るのか。

(委員)

短期的な話としては協定の話を中心とするが、こうした自治体での訓練の根底にある日米地位協定の問題についても、どのように解決するべきか、ということも併せて提言していきたい。

また、今年に入り問題となっている消化剤土壌汚染問題、コロナ感染関係の出入国管理、検疫の問題等にも触れていきたい。

(委員)

米軍訓練移転先の協定違反について、アメリカではあまり認識がない。過去にどのような違反があったかをまとめるのはアメリカにおいても非常に参考になる。

---

これまでの議論を踏まえて、引き続き論点を整理し、次回の会議においてさらに議論を行っていくことを確認。